

日本教育大学協会 全国美術部門 会報 No.53

令和元年度(2019)年 6 月 24 日発行

編集・発行 全国美術部門広報室
代 表 佐藤哲夫 (新潟大学)
総務局長 新野貴則 (山梨大学)
広報室 E-mail: daibibumon@uaesj.com (総務局専用)
事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る西大路町
146 番地 中西印刷株式会社 学会部内
TEL: 075-415-3661/FAX: 075-415-3662
E-mail: uaesj@nacoss.com

部門の活性化のために

全国美術部門代表 佐藤 哲夫 (新潟大学)



平成 30 年度、令和元年度の全国美術部門代表を務めさせて頂いている佐藤です。30 年続いた平成が終わり令和の時代となった今、皆様は、国立大学法人の美術科教員として、どのようなことを感じておられるのでしょうか。私は、抑鬱感と苛立ち、無力感がない交ぜになったモヤモヤとした気分を、常時どこかで感じているような気がしています。それというのも、あまりに多くの問題があり、それらが複雑に絡まっていて見通しが効かないからです。グローバル化、少子化などの社会が直面している環境変化の状況、文科省や大学執行部からの改革の方向性の提示、またそれにぴったり沿う形での対応の要求があります。学校教育における美術教育についても、教育委員会や実務の重視の姿勢からは、これまでの大学教員は無用の長物であるとの認識が透けて見えるかのようであり、大学生の嗜好や考え方が変化する中で対応に苦慮する自分は、確かに無用の長物かもしれないという自虐的冷笑に囚われます。

しかし、令和と元号が代わった今、これらの課題複合体に押し潰されてしまうのではなく、少しでも押し返して解決の明るい兆しを見出したいものです。そのためにまず必要な事は、否定的な気分は脇に置いておいて、今起こっている事態を冷静明瞭に把握することでしょう。そのためのガイドとなるものが私たちのすぐ手近にもあります。

本会報 No.52 の当時部門副代表だった新関先生の「国立の美術科教員を巡る現況と課題」と題する一文です。過去会報は、部門・学会のホームページからダウンロード出来ますので是非ご覧ください。そこでは主に、平成 29 年 8 月の「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて一国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書一」の読み解きから国の施策の方向性が占われ、これまでの教員養成の既得権の主張に代わる、現実を見据えた新しい教員養成のビジョンをわれわれ自らが作り上げる必要性が述べられています。

私たちの美術部門には、北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州の九つの地区会があります。そして各地区より 2 名の全国委員を選出してもらい、地区会で話し合われた内容を、毎年の全国大会前日の美術部門協議役員会で報告して貰っています。しかし、十分な時間の確保が難しいこともあり、多分に形式的な報告に留まり勝ちです。地区会での議論自体は活発であるということをお願いしておりますが、実態はどうなのでしょう。部門の活性化が地区会から始まる時、教大協の目的「会員相互の協力によって、大学・学部の質的向上と教育に関する学術の発達を図り、もってわが国教育の振興に寄与する」に、新しい次元で答える起点となるのではないのでしょうか。

平成 30 年度 地区会報告

【 北海道地区会 】

9月10日(月)に予定していたTV会議が北海道胆振東部地震のために通信機材に被害が出て開催出来なくなり、第1回北海道地区総会を書面会議として開催した。

日時：平成30年9月18日(火)から26日(水)まで開催

書面会議参加者

札幌キャンパス：佐藤、花輪、李

旭川キャンパス：岩永、大石、南部、八重樫

釧路キャンパス：佐々木、富田、福江

函館キャンパス：橋本

岩見沢キャンパス：阿部(宏)、阿部(吉)、新井、伊藤、大西、小北、倉重、坂巻、佐々木、末次、竹田、羽子田、二上、舩岳、前田、三浦、三橋

協議事項

1. 平成30年度以降の地区全国委員・地区全国理事について

下の表の通り、平成33～34年度の地区全国委員・地区全国理事は佐々木先生(岩見沢校)が担当されることが提案され、全員一致で承認された。

年度	地区理事	地区理事
30	二上(岩見沢)	橋本(函館)
31	竹田(岩見沢)	橋本(函館)
32	竹田(岩見沢)	福江(釧路)
33	佐々木(岩見沢)	福江(釧路)
34	佐々木(岩見沢)	

報告事項

1. 平成29年度拡大理事会(29年9月開催)報告

学会開催記録と北海道地区会規則の修正内容について報告があった。

(地区会規則による岩見沢校以外の地区理事順番：①札幌校→②旭川校→③函館校→④釧路校→①に戻る)

2. 理事の委嘱状と拡大理事会出席旅費申し合わせについて

理事の委嘱状と拡大理事会出席旅費申し合わせ資料の報告があった。

3. 自然災害に罹災した学生会員に対する奈良大会参加費の減免措置について

この措置について、地区理事から学会長と本部事務局にお礼のメールを送ったことの報告があった。

4. その他

北海道・東北ブロックにおける学会の開催地区について、平成33年度が東北地区、平成38年度は北海道地区で行う予定の報告があった。

※当初予定していたTV会議では、各キャンパスが現在抱えている諸問題を自由に議論する時間を設ける予定であったが、地震のためTV会議から文書会議に変更になり叶わなかった。この討論の場は、次回の地区会では是非設けたいと思っている。

二上正司(北海道教育大学岩見沢キャンパス)

【 東北地区会 】

日時：平成30年6月22日(金)13:30～17:00
場所：コラッセふくしま

出席者：富田晃先生(弘前大学)、金沢文緒先生(岩手大学)、安彦文平先生(宮城教育大学)、土井敬真先生(山形大学)、長瀬達也先生(秋田大学)、新井浩(福島大学)、加藤奈保子(福島大学)

開催校からの開会の辞、挨拶のあと、慣例により前回開催の宮城教育大学から安彦文平先生、当番校の福島大学から新井浩が議長として選出された。

〈談話題〉

1. 入試状況について(岩手大、宮教大、山形大、福島大)

資料にもとづき、各大学から今年度の受験者数と出身地の内訳、教職大学院への進学希望者の動向などについて報告があった。

2. 就職状況について(宮教大、山形大、福島大) 資料にもとづき、各大学から昨年度の卒業生・

修了生の就職の動向（とくに教員採用試験）について報告があった。全体的に民間の就職率は高いが、教員採用は不安定な傾向が見られた。

3. 教員人事について（山形大）

欠員の補充への対応に関する報告。各大学とも、必置数ギリギリ・特命（特任）教員・非常勤講師での苦しい対応を迫られる。また、ポイント制の導入、昇任人事についても情報共有を行なった。

4. 卒展の運営について（弘前大）

会場や経費、記録集の作成について情報共有を行った。

5. 大学院教育について（弘前大）

専門の研究科と教職大学院への進学状況、教員の配置について、各大学から報告があった。

6. 教職大学院における美術教育関係の学生の動向について（秋田大）

7. 他大学との連携をめぐる動向について（福島大）

プラットフォーム化、クロスアポイント制などについて情報共有を行った。

【 関東地区会 】

日 時：平成 30 年 7 月 7 日（土）

- ・代議員会 13：00～13：30（代議員会受付 12：45～）
- ・地区総会 13：30～14：30（地区総会受付 13：15～）
- ・協議会 14：30～16：45
- ・懇親会 17：00～

場 所：埼玉大学教育学部 A 棟会議室（114）

出席者：全 23 名

■地区総会

地区長挨拶（高須賀）

1. 前年度議事録の確認

前年度地区長より報告（栗田）→議事録承認

2. 平成 29 年度関東地区会収支決算報告

会計担当の山梨大学（栗田）から報告された。

3. 平成 29 年度関東地区会会計監査報告

監査担当の群馬大学（斎江）から報告・承認された。

4. 平成 30・31 年度全国美術部門地区全国委員選

出

30・31 年度担当 東京学芸大学 宮里明人に決定。承認された。

5. 平成 30・31 年度大学美術教育学会地区全国理事選出

30・31 年度担当 東京学芸大学 宮里明人に決定・承認された。

6. 平成 30 年度地区総会・協議会の開催について

開催担当に東京学芸大学が決定・承認された。監査は埼玉大学が担当することが承認された。

7. その他

『美術教育の理論と実践』の出版について山梨大学（栗田）より報告。必要に応じて同様の機会を設けても良いとの意見が出された。その際には継続性を考慮し、投稿者が一部出版費用を負担することが望ましいとの意見があった。

■協議会

1. 承合事項

配付資料を基に承合事項について説明があり、大学間で承合した。

- (1) 学部の入試制度について
- (2) 学部教育（卒業研究・卒業要件・教員採用率）について
- (3) 講座人事の見通し
- (4) 大学院改変の状況
- (5) 研究体制（時間の都合で割愛）

2. 協議事項

- (1) 2020 年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会/第 59 回大学美術教育学会が宇都宮大学で開催されるにあたり全体テーマに対する意見が聴取された。

・【茨城大学】32 年度の大改革に伴う小学校教員養成課程改変の有無について

・【埼玉大学】国立大学法人の大学における美術教育の在り方を問う — 領域（教科教育と教科内容）の再編は必要か

- (2) 本会の開催時期について毎年 6 月中に開催することが確認された。

- (3) 規約改正について

当番大学において郵便口座を設けるために必要な規約改定が求められ承認された。

(以下、下線部分を改定)

第1条 2. 本会の所在地は、当番大学の所在地とする。

申し合わせ事項 1. 当番大学は、原則として次の順番で持ち回るものとする。

- ① 東京学芸大学(東京都小金井市貫井北町 4-1-1)
- ② 横浜国立大学(神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2)
- ③ 千葉大学(千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33)
- ④ 茨城大学(茨城県水戸市文京 2-1-1)
- ⑤ 宇都宮大学(栃木県宇都宮市峰町 350)
- ⑥ 群馬大学(群馬県前橋市荒牧町 4-2)
- ⑦ 山梨大学(山梨県甲府市武田 4-4-37)
- ⑧ 埼玉大学(埼玉県さいたま市桜区下大久保 255)

筑波大学については、当番大学を担当しない。

高須賀昌志(埼玉大学)

【北陸地区会】

日時：平成30年6月29日(金) 13:30~17:00

場所：金沢学生のまち市民交流館

出席者：全14名

1. 開会(司会：金沢大学 江藤 望)
 2. 当番校挨拶(金沢大学 江藤 望)
 3. 出席者の紹介(新会員 上越教育大学 兪 期天)
 4. 議長選出(新潟大学 郷 晃)
 5. 報告事項
- ① 日本教育大学協会全国美術部門委員会報告(北陸地区全国委員 福井大学 濱口由美)
 - ② 大学美術教育学会理事会報告(北陸地区全国委員 福井大学 濱口由美)
 - ③ 平成29年度事業報告と会計報告(新潟大学 郷 晃)
 - ④ 平成30年度事業計画と会計予算案(金沢大学 鷺山 靖)
6. 協議事項
- ① 北陸地区会美術部門研究協議会のあり方について

年に一度集まることの意義は大きいですが、最終的には開催校が判断することが確認された

- ② 教員免許の取得について
- ③ 教員人事について
- ④ 三大学共同教職課程について
- ⑤ 学校教育の現場とどのようなつながりをもっていくのか、県や市の造形教育連盟のかかわりのあり方について

7 承合事項 (各大学で確認)

- ① 平成33年度以降の入試のあり方について
- ② 教員就職率、並びに教員採用試験対策講座
- ③ 美術科の学部生の大学院進学について
- ④ 教育実習の状況について、あり方について
- ⑤ 再課程認定に伴う授業の変化について
- ⑥ 各大学における入学試験の志願者状況と今後の課題について
- ⑦ 大学の国際化に向け、各大学での特徴的な取り組み
- ⑧ 外国人留学生の受け入れ状況について
- ⑨ 教員志望者の激減に対する解決策のあり方について

8. 閉会 (次期開催大学 富山大学 隅 敦)

9. 諸連絡

10. 写真撮影

【東海地区会】

日時：2018年6月30日(土) 10:41~14:45

会場：愛知教育大学・美術第1実習棟2階 図画工作科実習室II

参加者：18名(敬称略)

- 岐阜大学 4名
河西栄二 佐藤昌宏 隼瀬大輔 山本政幸
- 静岡大学 4名
伊藤文彦 大宮康男 高橋智子 芳賀正之
- 三重大学 2名
関 俊一 山口泰弘
- 愛知教育大学 8名
井戸真伸 遠藤透 佐々木雅浩 杉林英彦
鷹巣純 富山祥瑞 永江智尚 松本昭彦

会議：10:41~12:44

1. 平成30年度 部門・学会地区委員について
平成29・30年度担当委員の鷹巣純氏が留任する

とともに、平成 30・31 年度担当委員として、静岡大学の宮康男氏が選出された。

2. 次年度（平成 31 年度）開催地について

平成 31 年度東海地区会開催校は、ローテーションに基づき、三重大学と決まった。

3. 平成 30 年度大学美術教育学会の開催について

平成 30 年度大学美術教育学会の開催校・奈良教育大学の進捗状況について、静岡大学の芳賀正之氏より情報提供があった。これに基づき、平成 31 年度開催校の岐阜大学のタイムテーブルが共有された。岐阜大会の日程は 9 月 21・22 日、役員会は 9 月 20 日の予定。発表は全学共通棟で行なわれ、懇親会は学内の食堂が確保された。各発表会場の司会として地区会員に協力要請があった。

4. 志願者数の動向（入試情報）に関する意見交換

各大学の入学志願者数の動向と入試への取り組みが報告された。加えて、入試の過去問題の公開に関する各大学の現状が確認された。

5. 卒業生、修了生の卒業後の進路状況について

卒業・修了者の進路について、各大学の状況が報告された。加えて、各大学の中長期計画の中で、教員就職者数に関する数値目標への対応が紹介された。

6. 再課程認定に向けての取組について

各大学での取り組みが報告された。

7. 教員養成大学・学部及び大学院の今後のありかた

各大学の状況が報告された。進行速度の差はあれ、いずれも大学院の教職大学院への一元化の方向については一致していることが確認された。

8. その他

特になし

○美術教育講座施設見学：13:40～14:05

耐震改修工事後の施設を中心に、図画工作科実習室、彫刻実習室、美術演習室、絵画実習室、鍍金実習室、陶芸実習室、ガラス実習室、木工実習室、デザイン実習室などが公開された。

○附属図書館見学：14:15～14:45

耐震改修後の館内施設のうち、インフォメーションギャラリー、キッズライブラリーが紹介され、

館所蔵チェンバレンコレクションから、江戸時代の模写本である「是害坊絵巻」上巻および「百鬼夜行絵巻」が公開された。

【 近畿地区会 】

地区会開催時期に西日本豪雨が発生したため、平成 30 年度の地区会開催を見送った。

【 四国地区会 】

日時：平成 30 年 7 月 14 日（土）12:00～14:30

場所：愛媛大学 城北キャンパス 教育学部本館 4 階 美術合同演習室 1

出席：愛媛大学…原田義明、千代田憲子、佐々木昌夫、福井一真、上原真依、秋山敏行

高知大学…金子宜正

鳴門教育大学…山田芳明

香川大学…古草敦史 以上 9 名

議題：

1. 拡大理事会・部門協議役員会報告について

本年度四国地区理事（愛媛大学・秋山）より、平成 29 年度第 2 回全国美術部門協議役員会および大学美術教育学会拡大理事会（メール会議：3 月 22 日、新野先生より）の報告が行われた。

・平成 29 年度日本教育大学協会全国美術部門協議会

・第 57 回大学美術教育学会奈良大会の日程確認

・日本教育大学協会全国美術部門・大学美術教育学会の HP 更新の確認

・協議事項なし

2. 本年度の地区全国委員について

本年度の地区全国委員として、愛媛大学：秋山敏行（平成 29-30 年）、高知大学：金子宜正先生（平成 30-31 年）の両名が確認された。また、四国地区美術部門入会者として愛媛大学・上原真依先生の入会が確認された。

3. 会計の引き継ぎについて

・支部会費納入、出席者への旅費補助支給等の完了。

・前年度会計担当の古草先生（香川大学）から今

年度担当の秋山(愛媛大学)への引き継ぎ確認。

4. 情報交換

- ・各大学の将来構想および教職大学院一本化の中で、現員数や講座の構成のあり方をはじめ、教科内容の立ち位置等についても意見交換がなされた。その際、修士課程(教育学研究科)がなくなることによる部門のあり方(専門性ないし研究のあり方)についても意見交換がなされた。
- ・部門と学会の関係を再考し役職名を揃えていくことも検討する必要があるのではないかという意見が出された。
- ・「教員養成縮小期における国立大学の現状と課題」に関わり、各大学の現状をはじめ、美術科教員養成を巡る人事やカリキュラム等の現状、入試や卒業研究など、これからの課題等について情報交換がなされた。

【中国地区会】

日時:平成30年5月19日(受付/13:30~) 14:00~16:00

会場:島根大学教育学部・2階/研修室室(212教室)

司会・進行:川路澄人(島根大学)

書記・記録:有田洋子(島根大学)

参加者:武田信吾(鳥取大学)、赤木里香子・松田和子(岡山大学)、一畝田徹・蜂谷昌之(広島大学)、吉田貴富(山口大学)、新井知生・小谷充・川路澄人・藤田英樹・有田洋子(島根大学)

1. 開会の挨拶 藤田英樹(島根大学)

2. 地区理事交代挨拶

・前理事/橋ヶ谷佳正(岡山大学):H28~29(赤木里香子先生代読)

・継続理事/川路澄人(島根大学):H29~30

・新理事/吉田貴富(山口大学):H30~31

3. 報告・協議事項

(1) 全国委員会・理事会報告 川路澄人(島根大学) ※配付資料1

○中国地区理事の出張旅費の補助について、年1回、1名分を中国地区会で補助する。

※「教大協中国地区理事の理事会・委員会出席時

の交通費支給について〈申し送り事項〉(2008年6月7日付)。

(2) 平成29年度地区会会計報告 赤木里香子(岡山大学)

○収入476,559円—支出15,120円=461,439円

(3) 平成29年度会計監査報告 小谷充(島根大学)

○適正に処理されていた。

(4) 協議

①本中国地区定例総会の在り方について ※配付資料2

○開催の継続の是非について山口大学吉田貴富先生より議題が事前に出され、これについて意見交換をした。

かつてに比べて大幅に削減された予算状況、業務増加状況のなか、本総会の開催そのものが負担となっている側面もある。このような現状のなか限られた予算と時間を割いて教員が集まらずとも、メール会議という方法もある。その一方、実際にその場に居合わせ情報や意見を交換することにも意味はある。

全国規定があることから全く開催しないのではなく、例えば、隔年開催、中国地区で大会実施の年のみ開催、大会時に合わせて開催、1大学につき1名の参加(四国地区の場合はそのようにしている)、テレビ電話による会議、無理の無い範囲で行う等の提案がなされた。

→ 地区会規程上、今回の総会では決定できない。

→ 継続審議とすることとした(来年度議題とする場合は、大学ごとに意見をまとめて、山口大学での中国地区定例総会で改めて審議することとした)。

②中国地区会員入退会

○退職のため退会:福田隆真(山口大学)、泉谷淑夫(岡山大学)

○特任教員の加盟について、本部に確認する。

※日本教育大学協会全国美術部門規程第6条(会員)「常勤教員であることを原則とする」。

4. 情報交換

入試状況、学生の就職状況、各大学の学部の改組、あるいは改革に関して、情報交換をした。

5. 連絡事項

特になし。

6. 次期定例総会当番大学挨拶

次期当番大学代表/吉田貴富先生(山口大学) 次年度、山口で地区定例総会を開催。

【九州地区会】

日時：平成30年6月29日(金)

会場：鹿児島大学教育学部 音楽美術科棟

出席者：17名

福岡教育大学… 笹原

佐賀大学 … 栗山、和田

長崎大学 … 針貝

大分大学 … 廣瀬

熊本大学 … 緒方

宮崎大学 … 石川、幸、大泉、大野

琉球大学 … 小林

鹿児島大学 … 池川、下原、桶田、和田、清水、小江

日程：13:30～14:00 協議会受付及び年会費、参加費、情報交換会費支払い

14:00～17:30 研究協議会

18:30～20:30 情報交換会(会場:「武三」)

■研究協議会

1. 開会挨拶

2. 鹿児島大学教育学部長挨拶

3. 出席者自己紹介

4. 議長団の選出(鹿児島大学、宮崎大学)

5. 協議題(議長：鹿児島大学 小江)

(1) 日本教育大学協会全国美術部門九州地区規程の改正について

日本教育大学協会全国美術部門九州地区規程の中に記されている「日本教育大学協会九州地区美術部門研究協議会の年会費についての申し合わせ」の改正に係るもので、年会費及び使途の変更等について協議を行い、提案通り改正が可決された。

6. 承合事項(議長：鹿児島大学 小江、宮崎大学 幸)

(1) 美術科では、他の教科を専攻する学生に比べて教員を目指す学生の割合が少ない傾向にあ

る。そこで、①学生が美術科教員を目指すために行なっている取り組み、②過去3年分の美術科教員志望者の割合及び合格者数の2点について

(2) 学生が夜遅く大学内に残っている場合、どのような対応をとられているかについて

(3) 学校教育特化後の学芸員資格の扱いについて

①ゼロ免課程廃止後も学芸員資格を取得できるかどうか

②美術科の教員が博物館施行規則の定める科目を担当しているかどうか

(4) 各大学の教員一人当たりの研究費の状況と対応について

(5) 美術科の入試(個別学力検査)における具体的な出題内容について

7. 来年度の当番校確認

平成31年度の当番校は宮崎大学。

8. その他

(1) 平成30年度九州地区全国委員・全国理事として、小江和樹(鹿児島大学)・幸秀樹(宮崎大学)の就任を報告。

小江和樹(鹿児島大学)

平成 30 年度 委員会活動報告

学校美術教育支援委員会 活動報告

●全国造形教育研究大会秋田大会報告

全国造形教育研究大会秋田大会（平成 30 年 7 月 30 日、31 日）大学部会が、30 日 10:40 から 11:20 まで、秋田大学附属中学校において、美術館部会と合同で会議を行った。

またこれらについて、平成 30 年度日本教育大学協会全国美術部門協議会（平成 30 年 9 月 21 日、奈良教育大学）において報告を行った。

1. 「全造連での助言者など大学部会で積極的に支援していく体制をどのようにつくるか」

大学と小中学校などが連携することが大切で、全造連大会においても大学教員の役割を果たすため、次回愛知大会に向けて大会事務局に指導助言等に関われるよう申し入れをする事が確認された。

2. 「教員養成系大学の課題についての現状報告と情報交換」

国立大学法人の人事凍結による退職教員の後任不補充による専門科目の偏りや、教員養成系大学、学部の統合化の動きの弊害に鑑みて、都道府県単位での地域に根ざした教員養成の重要性を教大協でアピールすべきで、この件については、現在大学部会で担当している「中学校美術科教員実態調査」を継続し、必要に応じ新たな調査内容や方法を検討して行くことも大切ではないかとの意見が出された。

運営費交付金の傾斜配当による配当率の低下の影響で国立大学の教員養成学部予算減が顕著になり十分な教員養成に繋がっていない。特に美術科教員養成に関しては、教育学部内での学生数の少なさも影響している。

大学が小学校教員養成中心にシフトし始め、中高の教員養成については私学を含めた芸術学部などの専門大学との連携などの動きも出てきた。このことは学生の不利になるとともに、教科専門の教員を置かなくてもよい口実になりかねない。

といった報告と情報交換が行われた。

3. 美術教育関連 8 団体の継続

昨年度行われた美術教育関連 8 団体（全造連も所属）の継続について担当学会を確認し、企画運営をするように依頼することとした。

4. 美術館教育の現状

2017 年 5 月に全国美術館会議が「美術館の原則と美術館関係者の行動指針」を採択したことを踏まえ、美術館の動向を注視しながら美術館との連携・協力を深める動きを作り出していく必要がある、そのためにも美術館部会の強化が望まれる。

●中学校美術科教員実態調査結果について

平成 26 年 3 月に全国大学造形美術教育教員養成協議会と日本教育大学協会（以下、教大協）全国美術部門とで組織された大学造形教育連絡協議会の事業の一環として、全国造形教育連盟大学部会（学校美術教育支援委員会が兼務）において中学校の美術科の専任教諭や非常勤講師の中学校への配属状況等について把握するための「中学校美術科教員実態調査」を実施することを決定し、これ以降、継続的に調査をしている。

平成 30 年度においては、全国造形教育連盟に所属する各都道府県・政令指定都市の事務局を対象に質問紙調査（7 月～11 月）を行い、35 の事務局から回答を得た（回収率 約 52%）。

調査の結果、美術科の専任教諭を配置している学校は約 58%、配置していない学校は 42%あること、非常勤教員・講師で対応している学校や免許外教員で対応している学校の数は都道府県によって大きな差があることなどが明らかになった。

この結果は、平成 30 年度教大協全国研究部門代表者連絡協議会を通して、教大協会長へ「中学校美術科担当専任教諭の適正配置に関する要望書」として提出した。

本調査は、信頼性・有用性の向上を目指して調査方法や調査時期などを改善しながら、継続的に実施していく予定である。

平成 30 年度 役員会報告

日時：平成 30 年 9 月 21 日（金）16：30-17：10

場所：奈良教育大学 306 教室

司会進行：新野貴則（総務局長）

I あいさつ

開会の辞 新関副代表から挨拶がなされた。

代表挨拶 佐藤代表から挨拶がなされた。

II 報告事項

1 平成 30 年度 部門会員登録状況

芳賀副総務局長より、9 月 21 日現在、部門会員は 312 名であること報告がなされた。

2 平成 30 年度 役員・各種委員会委員

新野総務局長より、概要集の資料をもとに平成 30 年度役員・各種委員会委員の報告がなされた。

3 平成 29 年度 事業報告

新野総務局長より、概要集の資料をもとに平成 29 年度事業報告について報告された。

4 平成 30 年度 部門協議会（副代表：新関伸也）

新関副代表より、概要集の資料をもとに平成 30 年度 部門協議会について報告がなされた。

5 部門各種委員会

(1) 学校美術教育支援委員会

西村副委員長より、組織・協力体制、教員養成系大学 8 団体との継続的話し合い、三学会代表（美術科教育学会 水島代表）について報告がなされた。

(2) 平成 29 年度 中学校美術科教員実態調査

西村総務局委員より、教員実態調査について報告がなされた。

6 地区会規程の改正

新野総務局長より、北陸地区会と九州地区会の規程の改正について報告がなされた。

7 その他

III 協議事項

1 平成 29 年度決算、平成 30 年度 事業計画(案)・予算(案)

(1) 平成 29 年度 決算

芳賀副総務局長より説明があり、総会にて承認を得ることが確認された。

(2) 平成 29 年度 監査

山本監事より、資料をもとに平成 30 年 9 月 18 日に実施した監査委員会について、会計が適切に処理され、正確に決算が執行されていた旨の説明があり、総会にて承認を得ることが確認された。

(3) 平成 30 年度事業計画(案)

新野総務局長より、概要集をもとに説明があり、総会にて承認を得ることが確認された。

なお、部門会報・第 53 号について、平成 30 年度には発行せず、平成 31 年度 7 月に発行予定であることが説明された。

(4) 平成 30 年度予算(案)

芳賀副総務局長より、平成 30 年度の部門会員は 312 名であることが報告され、資料をもとに平成 30 年度予算(案)について説明があり、総会にて承認を得ることが確認された。

また、新関副代表より、支出の部に「事業費」項目の新設、もしくは「各種委員会等」項目の予算増額を検討してほしい旨の話があり、検討する方向となった。

2 部門規程等の改正(案)

新野総務局長より説明があり、総会にて承認を得ることが確認された。

また、新関副代表より改正した部門規程などを名簿に掲載してほしい旨の話があり、検討する方向となった。

IV あいさつ

閉会の辞 小澤副代表から挨拶がなされた。

(終了 17：10)

平成 30 年度 総会報告

日時：平成 30 年 9 月 23 日（日）13：25-13：40

場所：奈良教育大学 大講義室

司会進行：宇田秀士（奈良教育大学）

1. 開会の辞

佐藤代表から挨拶がなされた。

2. 議長団選出

議長として中国・九州ブロックの栗山裕至(佐賀大学)、副議長として北陸・東海ブロックの濱口由美(福井大学)が選出された。

3. 議事

【報告事項】

(1) 平成 30 年度 役員・各種委員会委員

佐藤代表より、概要集の資料をもとに平成 30 年度役員・各種委員会委員の報告がなされた。

(2) 平成 29 年度 事業報告

新野総務局長より、概要集の資料をもとに平成 29 年度事業報告について報告がなされた。

(3) 平成 29 年度 決算

芳賀副総務局長より、資料をもとに決算の報告がなされた。

(4) 平成 29 年度 監査

新野総務局長（山本・松尾 監事代理）より、資料をもとに平成 30 年 9 月 18 日に実施した監査委員会について、会計が適切に処理され、正確に決算が執行されていたことの報告がなされた。

(5) 学校美術教育支援委員会

大橋委員長より、大学教員研究支援体制、全造連と美術館との協力体制、教員養成系大学間の情報交換体制の構築について継続的に話し合いをすることの報告がなされた。

(6) 平成 31 年度協議会の開催大学

河西大会運営委員より 2019 年 9 月 21 日(土)、22 日(日)の仮日程で予定されている岐阜大会について、説明がなされた。

【協議事項】

(1) 平成 30 年度事業計画（案）

新野総務局長より、概要集をもとに説明があり、総会にて承認が得られた。

(2) 平成 30 年度予算（案）

芳賀副総務局長より、平成 30 年度の部門会員は 312 名であることが報告され、資料をもとに平成 30 年度予算(案)について説明があり、総会にて承認が得られた。

(3) 部門規程等の改正（案）

新野総務局長より、資料をもとにして説明があり、総会にて承認が得られた。

4. 議長団解任

5. 閉会の辞

小澤副代表より閉会の辞があった。

平成30年度 役員・各種委員会委員一覧

- 代表 佐藤哲夫* (新潟大学)
- 副代表 新関伸也* (滋賀大学)
小澤基弘* (埼玉大学)
- 顧問 小野康男* (横浜国立大学)
- 総務局委員
総務局長 新野貴則* (山梨大学)
副総務局長 芳賀正之* (静岡大学)
村田 透* (滋賀大学)
総務局員 西村德行 (東京学芸大学)
原口健一 (横浜国立大学)
渡邊美香 (大阪教育大学)
山田芳明 (鳴門教育大学)
大貫真寿美 (帝京大学短期大学)

- 大会運営委員
宇田秀士 (奈良教育大学)
河西栄二 (岐阜大学)

- 監事
山本政幸 (岐阜大学)
松尾大介 (上越教育大学)

■地区全国委員

- I〔北海道〕
二上正司 (北海道教育大学岩見沢校)
橋本忠和 (北海道教育大学函館校)

〔東北〕

- 降旗 孝 (山形大学)
遠藤敏明 (秋田大学)

II〔関東〕

- 高須賀昌志 (埼玉大学)
宮里明人 (東京学芸大学)

III〔北陸〕

- 濱口由美 (福井大学)
池上貴之 (金沢大学)

〔東海〕

- 鷹巣 純 (愛知教育大学)
大宮康男 (静岡大学)

IV〔近畿〕

- 山岸公基 (奈良教育大学)
前芝武史 (兵庫教育大学)

〔四国〕

- 秋山敏行 (愛媛大学)
金子宜正 (高知大学)

V〔中国〕

- 川路澄人 (島根大学)
吉田貴富 (山口大学)

〔九州〕

- 小江和樹 (鹿児島大学)
幸 秀樹 (宮崎大学)

■学校美術教育支援委員会

- (兼 大学造形教育連絡協議会)
(兼 全国造形教育連盟大学部会)

- 委員長 大橋功 (岡山大学)
副委員長 西村德行 (東京学芸大学)
委員 遠藤敏明 (秋田大学)
長瀬達也 (秋田大学)
石井宏一 (秋田大学)
松本昭彦 (愛知教育大学)
杉林英彦 (愛知教育大学)

*印：運営委員

平成 29 年度 全国美術部門 決算

■収入の部

(円)

	費 目	決算額	備 考
年会費	会費	717,000	3,000 円 × 239 名
	未納分	84,000	
助成金	教大協成金	80,000	
繰越金	平成 28 年度繰越金	198,160	
	合 計	1,079,160	

■支出の部

(円)

	費 目	決算額	備 考
補助金	全国協議会補助金	200,000	広島大会
印刷製本費	会報発行	123,152	全国美術部門会報 No. 51、No. 52 (発送費込み)
	名簿発行	60,480	隔年発行
運営費	運営員会・拡大総務局会	231,573	旅費
	会場費	23,658	会場費
	各種委員会等	18,862	部門調査
事務経費	通信費	40,392	会費請求
	事務費	5,261	
	雑費	1,728	手数料
委託費	事務支局業務委託費	97,200	会員管理業務
負担金	全造連負担金	4,000	年会費
予備費	予備費	0	
	合 計	806,306	

1,079,160 (収入の部) - 806,306 (支出の部) = 272,854 次年度へ繰越

平成 30 年度 全国美術部門予算

■収入の部

(円)

	費 目	決算額	予算額	増減	備 考
年会費	会費	717,000	936,000	219,000	3,000×312名 (平成30年度会員)
	未納分	84,000	0	-84,000	
助成金	教大協助成金	80,000	80,000	0	
繰越金	平成29年度繰越金	198,160	272,854	74,694	
	合 計	1,079,160	1,288,854	209,694	

■支出の部

(円)

	費 目	決算額	予算額	増減	備 考
補助金	全国協議会補助金	200,000	200,000	0	奈良大会
印刷製本費	会報発行	123,152	100,000	-23,152	全国美術部門会報 No.53 (発送費込み)
	名簿発行	60,480	0	-60,480	隔年発行
運営費	運営委員会・拡大総務局会	231,573	300,000	68,427	旅費
	会場費	23,658	30,000	6,342	会場費
	各種委員会等	18,862	50,000	31,138	部門調査
事務経費	通信費	40,392	50,000	9,608	会費請求
	事務費	5,261	10,000	4,739	
	雑費	1,728	10,000	8,272	手数料
委託費	事務支局業務委託費	97,200	97,200	0	会員管理業務
負担金	全造連負担金	4,000	4,000	0	年会費
予備費	予備費	0	437,654	164,800	
	合 計	806,306	1,288,854	209,694	

平成 29 年度 事業報告

平成 30 年度 事業計画

5月24日(水)	H29 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦
7月上旬	「広島大会一次案内」発行・郵送
7月22日(土)	第1回運営委員会、第1回拡大総務局会議(東京/ABC貸会議室)
8月31日(木)	広島大会事前参加申込締切
9月11日(月)	「広島大会案内(最終)」HP掲載
9月上旬	「部門会報・第51号」発行・郵送
9月6日(水)	第2回運営委員会(メール会議)
～9月13日(水)	
9月18日(月)	平成28年度会計監査 (村松監事・竹井監事)
9月22日(金)	大会前日諸会議:第2回拡大総務局会、第1回全国美術部門役員会、各種委員会、全造連大学委員会(全美協との合同協議)
9月23日(土)	平成29年度日本教育大学協会全国美術部門協議会・第56回大学美術教育学会「広島大会」:部門・学会合同開催式(広島大学)、部門協議会、総会、部門・学会合同懇親会、大会特別企画、ポスター発表、研究発表(口頭)、閉会式、大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-奈良教育大学)
11月17日(金)	第70回全国造形教育研究大会 長野大会
～11月18日(土)	
12月1日(金)	日本教育大学協会への事業実績報告(H29.4-12事業分)
(平成30年)	
1月25日(木)	日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会(東京学芸大学本部)
3月3日(土)	第3回運営委員会
3月22日(木)	第2回全国美術部門役員会(メール会議)
3月30日(金)	「部門会報・第52号(次期大会予告)」発行・郵送(奈良大会一次案内)
4月2日(月)	日本教育大学協会への事業報告(H29.12-H30.3事業分)
	*上記のほか、運営委員会(メール会議)等を随時開催

5月31日(木)	「奈良大会二次案内」メール配信
6月8日(金)	H30 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦
6月28日(木)	「奈良大会三次案内」発行・郵送
7月8日(日)	第1回総務局会(東京/ABC貸会議室)
7月30日(月)	第71回全国造形教育研究大会 秋田大会
～7月31日(火)	
8月27日(月)	奈良大会事前参加申込締切
9月上旬	「奈良大会案内(最終案内)」HP掲載、メール配信
9月上旬	第2回総務局会(メール会議)
9月上旬	平成29年度会計監査 (山本監事・松尾監事)
9月21日(金)	大会前日諸会議:第3回総務局会、第1回全国美術部門役員会、各種委員会、全造連大学委員会(全美協との合同協議)
9月22日(土)	平成30年度日本教育大学協会全国美術部門協議会・第57回大学美術教育学会「奈良大会」:部門・学会合同開催式(奈良教育大学)、研究発表(口頭)、シンポジウム、部門・学会合同懇親会、部門協議会、ポスター発表、総会、閉会式、大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-岐阜大学)
12月上旬	日本教育大学協会への事業実績報告(H30.4-12事業分)
(平成31年)	
1月下旬	日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会(東京学芸大学本部)
2月上旬	第1回代表・理事長選考委員会
2月上旬	第4回総務局会
3月下旬	第2回全国美術部門役員会(メール会議)
3月下旬	「次期大会一次案内」メール配信
3月下旬	日本教育大学協会への事業報告(H30.12-H31.3事業分)
	*上記のほか、運営委員会(メール会議)等を随時開催

平成 30 年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会 奈良大会報告

近畿・四国地区の 10 大学教育系学部 of 支援体制の下、2018 年 9 月 21 日(金)～23 日(日)に、「2018 年度日本教育大学協会全国美術部門協議会並びに第 57 回大学美術教育学会」を奈良教育大学で 54 年ぶりに開催しました。天候にも恵まれ、240 名余りの有料参加者があり、招待者・企業参加者・スタッフをあわせると、約 290 名近くが小さな奈教大キャンパスに集いました。

1. 概要

[日程]

○大会前日 9 月 21 日(金)午後 役員会議

○大会 1 日目 9 月 22 日(土)

開会式、口頭発表、大会運営事務局主催シンポジウム、懇親交流会

○大会 2 日目 9 月 23 日(日)

総会、口頭発表、日本教育大学協会全国美術部門主催協議会、ポスター発表、学生会議
[大会テーマ]文化遺産と美術教育

[会場] 630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学

[主催] 日本教育大学協会全国美術部門協議会
／大学美術教育学会

[後援] 奈良教育大学

[運営] 奈良教育大学 大会運営事務局

[発表申込み・事前申込み]

○口頭及びポスター発表の演題登録 6 月 20 日(水)10 時から 7 月 18 日(水)13 時

概要集原稿提出期限は 7 月 27 日(金)13 時

○発表者、事前参加登録・振込期限 8 月 27 日(月)
[参加者]

○有料参加者 239 名(事前申込者 151 名：会員・一般 113 名、院生・学生 38 名／当日申込者 88 名：会員・一般 68 名、院生・学生 20 名。)
招待者 8 名、スタッフ 27 名、企業 12 名。

○懇親交流会有料参加者 137 名(事前申込者 100 名：会員・一般 80 名、院生・学生 20 名／当日申込者 37 名：会員・一般 25 名、院生・学生 12 名)
招待者 2 名、スタッフ 10 名

[発表者] 口頭発表 57 件(1 件は直前辞退)
ポスター発表 18 件

2. 大会 1 日目 9 月 22 日(土)

[口頭発表] 22、23 日の両日に行なわれた口頭発表では、鑑賞教育、教師教育、材料・素材研究、理論研究、海外での教育思想研究、美術教育史、幼児造形教育などの発表があり、熱心な意見交換がありました。

[開会式] [シンポジウム] 大講義室にて、開会



図 1 山下圭介氏 口頭発表(201 講義室)

式に引き続き、大会運営事務局主催シンポジウム「文化遺産と美術教育」を行ないました(15:45-17:45)。

登壇者に松本伸之氏(奈良国立博物館 館長)、人見和宏氏(大津市立栗津中学校教頭)、田中直子氏(総本山醍醐寺学芸員)をお招きし、山岸公基(奈良教育大学教授)がコーディネーターを務めました。

約 150 名の参加があり、人見氏が、中学校美術科の授業において、主に地域の文化財を取り上げ、生徒の能



図 2 開会式で挨拶する
大山大会運営委員長

動性を生かす鑑賞授業の実践に取り組んだ実践報告・提案をし、田中氏は地域連携による京都市立醍醐中学校との文化財鑑賞授業を報告・提案しました。松本氏は、京都国立博物館及び東京国立博物館の副館長時代の学校との連携活動や奈良国立博物館で始めた活動を報告しました。3人の報告・提案の後にフロアーからの質問・意見にこたえる形の討議があり、文化遺産を活かした実践の可能性と課題を確認しました。

[懇親交流会] 同日夕刻の大学内での約150名の参加の懇親交流会では、佐藤哲夫代表・理事長(新潟大)や本学加藤学長の挨拶のほか関連学会の美術科教育学会元代表理事の金子一夫氏(茨城大)、日本美術教育学会事務局長の大橋功氏(岡山大)、私学代表の三澤一実氏(武蔵野美術大)のスピーチがあり、多いに交流を深めました。会後半では次年度大会開催の岐阜大学のスタッフの挨拶もあり、大会の襻をつなげました。



図3 シンポジウムの登壇者



図5 学生会館で交流を深める参加者



図4 シンポジウムでの田中氏の発表



図6 懇親会での岐阜大学スタッフ挨拶

3. 大会2日目 9月23日(日)

[全国美術部門協議会] 23日の本部事務局主催「日本教育大学協会全国美術部門協議会」(10:45-12:10)では、「教員養成縮小期における国立大学の現状と課題—これからの美術科教員養成を占う」というテーマの下、新関伸也氏(滋賀大学)をコーディネーターとして、新井浩氏(福島大学)、濱口由美氏(福井大学)、秋山敏行氏(愛媛大学)、栗山裕至氏(佐賀大学)から現状と課題の報告がありました。厳しい現状の下で、いかに活路を見出すかを考えられました。



図7 協議会の登壇者(大講義室)

[総会] 大講義室における年一度の総会において、活動計画案、決算・予算報告などについて審



図8 神戸大の勅使河原氏、安里氏 ポスター発表

議しました。

[ポスター発表] 同日昼に、207・208・209講義室で行なわれたポスター発表では、18件の発表があり、参加者との近い距離での対話や議論が生まれました。

[学生会議] 奈良大会で9回目の開催となった学部学生を中心とした学生会議(206講義室)では、「新しい学びを共有—未来の美術教育をつくるために—」というテーマのもと、今後の美術教育について代表学生の発表をもとに熱心な議論を交わしました。



図9 谷川氏(埼玉大学)の発表をきく参加者

4. 大会運営について

多くの発表者、参加者、企業ブース関係者及び本部事務局の支援により、盛会となりましたことに御礼申し上げます。なお奈良大会は、以下のスタッフにより、運営致しました。

○奈良大会運営事務局(奈良教育大学 美術教育講座内)[大会運営委員長] 大山明彦/[大会運営副委員長(研究)] 山岸公基/[大会運営副委員長(総務)/大会運営委員] 宇田秀士/[大会運営事務局委員] 原山健一、竹内晋平、狩野宏明/[院生・学生スタッフ] 16名

○第57回奈良大会システムサポートデスク
京都市上京区 中西印刷株式会社内

[謝辞] 近畿・四国地区10大学の先生方、サポートデスク河合真須美氏には、特段のご支援をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

(大会運営委員 宇田秀士 2018. 10. 31記)

会員情報（メールアドレス）の更新のお願い

経費削減ときめ細やかな会員サービスの実現のために、部門からの連絡の一部を可能な限り電子メールに移行させていただいております。

会員の皆様には電子メールアドレスに変更等がございましたら、随時、e-naf システムより会員登録情報の更新をお願い致します。

<更新方法>

- ①日本教育大学協会全国美術部門会員情報管理システム（e-naf）ログイン画面を開く
<https://e-naf.jp/ART-BUMON/member/login.php>
- ②「ログイン ID（会員番号）」と「パスワード」を入力（ID は封筒の宛名の右下に記載があります。今後も必要となりますので必ずご自身で控えておいてください。パスワードを紛失した場合は、ログイン画面より再発行が可能です。）
- ③会員登録情報をクリック
- ④画面一番下の「修正」をクリック
- ⑤修正したら、確認画面→登録へと進む。
- ⑥登録変更のご連絡（自動配信メール）が届いたら変更完了

問合せ先について

日本教育大学協会全国美術部門では、平成 26 年度以降、業務の一部をアウトソーシング（中西印刷株式会社に業務委託）しております。つきましては、会員管理・会費に関するお問い合わせは、日本教育大学協会全国美術部門事務支局（中西印刷内）へ、その他については、総務局へお問い合わせください。

<会員管理・会費関連に関するお問い合わせ>

日本教育大学協会全国美術部門事務支局
（中西印刷株式会社内）

Tel:075-415-3661

e-mail:art-bumon@nacos.com

<総務局へのお問い合わせ>

総務局専用電子メールアドレス

e-mail:daibibumon@uaesj.com

年会費の支払いに関するお願い

日本教育大学協会全国美術部門は、皆様の年会費により運営されています。年会費の支払いにご協力ください。

滞納されている方は、早めに納入くださいますようご協力お願い致します。なお、払込取扱票の再発行はいたしかねます。未納額が不明な場合には、会員様ご自身で e-naf より会費納入状況をご確認いただけます（メールによるお問い合わせにも、従来通り対応致します）。また、領収書は払込の控えをもって代替させていただいておりますので、ご了承ください。

■振込先

口座番号：00940-9-173101

加入者名：日本教育大学協会全国美術部門

*大会参加費の送付先とは異なりますので、ご注意ください。

部門会員の名簿について

日本教育大学協会全国美術部門では、2年ごとに会員名簿を作成し、会員の皆様にお送りしております。

本年度は、会員名簿を作成する年度になっております。各地区会を通して会員の皆様に名簿作成にご協力いただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

なお、会員名簿は年度末に発行する予定です。

【総務局広報担当】

新野貴則（山梨大学）

村田 透（滋賀大学）

芳賀正之（静岡大学）

